

## 単位互換事業の今後の方向性について

### 1. 単位互換制度について

- ・協定に参加している大学の学生が、協定している他大学の授業を受講することができ、その授業で取得した単位が自大学の単位として認定される制度
- ・大学コンソーシアム京都では、設立当初の1994年から実施し、京都を中心とする約50の大学・短期大学部が協定に参加
- ・単位互換の授業は、キャンパスプラザ京都、及び、科目提供大学のキャンパスで実施

### 2. 単位互換制度の現状について

- ・各大学から単位互換科目として提供される科目数は、2006年度より500台を推移しており、今年度は516科目の提供があった。
- ・出願者数は、2000年代前半をピーク（2001年：14,270名）に、現在は減少傾向にあり、今年度は5,287名であった。（詳細は別紙参照。）
- ・その理由として、各大学における教学改革に伴うカリキュラムの厳格化により、本制度の利用に制限がある大学が出てきていること等が考えられる。

### 3. 単位互換制度の今後の方向性について

#### (1) 単位互換科目の特色化

- ・補助金（科目開設補助金、科目運営補助金）の支給による単位互換科目の特色強化
- ・「世界遺産PBL科目」の新設（2015年度開講予定）  
⇒世界遺産6社寺×7大学の提携による8科目を提供予定  
<提携する社寺と大学の組み合わせについて>（順不同）

社寺	大学
上賀茂神社	京都産業大学
上賀茂神社	京都ノートルダム女子大学
清水寺	立命館大学
醍醐寺	京都橘大学
醍醐寺	龍谷大学
東寺	京都市立芸術大学
二条城	同志社大学
仁和寺	立命館大学

#### (2) 科目内容・到達度等に関する点検評価機能の構築

- ・専門委員会「教育事業企画検討委員会」での、財団の教育事業の枠組みや制度の検討
- ・授業アンケートシステムの導入と活用

#### (3) 単位互換科目の広報戦略の強化

- ・特色ある科目や学生のニーズが高い科目を中心とした質の高い科目の提供と広報の強化